

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2024年度(令和6年度)事業計画

1. 受託事業

[1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2024

(令和6年度文化芸術振興費補助金 舞台芸術等総合支援事業(芸術家等人材育成))

継続的に実施している人材育成事業。全国コミュニティシネマ会議、上映者育成のための講座・ワークショップ、コミュニティシネマ連携企画、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱とする。シンポジウムやワークショップ、講座等の事業を通して、地域の上映活動を担う人材を育成し、ネットワークの構築を進める。

(1) 全国コミュニティシネマ会議2024(上映者育成のための講座・ワークショップ)

2024年9月19～20日 会場:川崎市アートセンター(神奈川県川崎市)ほか
R6年度の全国コミュニティシネマ会議は、神奈川県川崎市で開催する。

以下のような内容を検討。

プレゼンテーション+講演:「こどもと映画」(映画教育プログラム)について(仮)

プレゼンテーション+ディスカッション:“学びの場”としての映画館

プレゼンテーションマラソン2024

分科会(いずれも予定):

- ①アートハウス・カルチャーの応答可能性(レスポンスビリティ)
- ②コミュニティシネマのつくりかた
- ③若い観客を育成する/鑑賞ワークショップの方法論

(2) コミュニティシネマ連携企画の推進

①「こども(若年層)と映画」プログラム

「こどもと映画プログラム」では、若年層(小中高生～大学生を含む)を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すため、以下の事業を行う。

- 「こどもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け上映会をより魅力的なものにするための方法(子ども向けの解説、映写室見学、簡単なワークショップ等々)を考え、情報やノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのミーティングを定期的に行い、作品資料、ワークシートの作成などを共同で行う。

- 上映作品資料(作品資料/鑑賞ノート)の作成

上記のミーティング参加メンバーで、クラス単位での上映会のための作品のテキスト(指導者用作品資料/鑑賞者用)を作成する。

- 夏休み子ども映画館(上映会)の実施

全国各地のコミュニティシネマが連携して夏休みに、「夏休みの映画館」(約10館が参加)など若年層を対象とする上映会を開催する。2024年度は9会場で実施。

② 若手監督作品上映推進プロジェクト

若い監督や製作者によるインディペンデント映画の上映を盛り上げるため、監督や出演者等によるトークや舞台挨拶等のプログラムを企画、実施。出演者旅費を負担する。また、複数のミニシアターが連携して実施する市民・観客が参加できる地域交流・上映企画など、新しい映画館の魅力を発信する事業を開拓・実施する。全国各地の映画館・上映団体10館程度で実施。

(3) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるためのプロジェクト。R6年度は、ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり、フィルム映写技師の育成のためのワークショップ、Fシネマの魅力を広く伝える上映会を実施。

- Fシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネマップ」fcinemap.comの運営。

- フィルム映写ワークショップ（予定）

フィルムに触れる機会が減り続けている上映者・映写技師の育成のためのワークショップ。

今年度は高崎市での開催を予定している。

- フィルム上映会の実践

映写技師の育成と、フィルム文化の魅力と重要性を伝えるため、全国コミュニティシネマ会議に合わせてフィルム上映会を開催する。

コミュニティシネマセンター会員館と共同でフィルムでの上映会を実施する。

[2] 「映画上映活動年鑑 2024」の作成

（日本芸術文化振興会 令和6年度「文化芸術の動向把握に向けた基礎資料収集事業」）

映画の上映は、映画産業・コンテンツ産業の一部として捉えると同時に、文化事業、教育事業、公共的な事業として捉えることが重要である。この年鑑では、幅広い視点から上映活動をとらえ、「映画館での上映（興行）」（及び配給）に関する既存のデータを活用しながら、これに映画祭やシネマテークでの上映など公共的な上映活動に関するデータを加え、我が国における映画上映の現状を提示し、分析する。映画館や公開作品については独自に詳細なデータを収集、巻末には、47都道府県別に全映画館と公共の上映活動に関するリストを掲載する。上映に関するデータを多面的に収集・分析することにより、我が国における映画上映のリアルな状況を提示し、特に文化事業としての側面から、その課題を提示し、上映振興策立案のための基礎資料とされることを目指す。

「映画上映活動年鑑2024」 内容（案）

I 映画館での上映

(1) 概況

スクリーン数の推移（1993～2024） 観客数の推移（2015～2024）

種類別にみる映画館数・スクリーン数の変化（2005～2024）

地方別にみる種類別映画館数・スクリーン数の変化（2015/2024）

全国映画館地図（種類別）（2005/2024）

(2) 公開本数・公開作品

公開本数の推移(2015～2024) 興行収入の推移（2015～2024）

1作品あたりの観客数（2015～2024）

公開作品の上映館数 [公開規模]

2024年に映画館で公開された映画の分類 ※公開作品及び特集上映リスト（基礎資料）（約1500件）

2024年興行収入10億円以上作品 [日本映画] [外国映画]

興行収入10億円以上の映画/興行収入10億円未満の映画

(3) 諸外国との比較 北米・イギリス・フランス・韓国等との比較

[観客数] [年間鑑賞本数] [スクリーン数/館数] [1スクリーン当たりの人口] [1スクリーン当たりの観客数]

[入場料金・興行収入] [シネマ・コンプレックスの割合 スクリーン数/映画館数] [公開本数]

(4) 都道府県別概況

都道府県別概況（人口/映画館数/スクリーン数/年間観客数/1スクリーン当たり人口

1スクリーン当り観客数/一人当たり年間鑑賞回数）

都道府県別スクリーン数の推移（2015～2024）

都道府県別にみる種類別映画館数・スクリーン数の変化

(5) 全国映画館リスト 約600館 (3600スクリーン)

II 公共上映

- (1) 映画祭 全国映画祭リスト (約200件)
- (2) 公共の映画専門施設 公共の映画専門施設 (アーカイブ、シネマテーク) リスト (20件)
- (3) 映画館以外で行われる上映活動 (主要な自主上映) 一覧 (約300件)

III 特別調査

以下のテーマを予定している。

「映画館の現状 詳細調査～映画館支援プログラムの可能性を考える」(仮)

- (1) 全国様々な地域 (大都市/中都市/小都市) にある

3つの映画館 (予定) を選定し、以下の項目を調査する。

調査項目 (予定)

- ・ 団体概要 (館名/住所/電話/ウェブサイト/開設年/運営主体/所有・賃貸)
- ・ スタッフ (正規/アルバイト/年齢/勤続年数/雇用条件等)
- ・ 運営状況 (年間の収入/支出)
- ・ 上映活動のレポート

1年間の上映作品リスト (上映日数・上映回数・観客数)

上映関連イベント (特集上映、トーク、ワークショップ、子ども向け企画、映画祭、等々) の詳細レポート

- (2) 上記の調査結果を提示・分析し、課題を考える
- (3) 上記の調査結果を元に、具体的な上映支援策を提示する。

全国コミュニティシネマ会議採録

- IV 世界の映画上映事情** 今回は韓国・仁川での交流イベントのレポートを掲載することを検討。

V 資料

- (1) 都道府県別 (映画館/公共施設・シネマテーク/映画祭) 詳細

各都道府県の全映画館リスト (約600館/3600スクリーン) 2015/2024

各都道府県の映画祭/シネマテーク・映画関連資料館/映画館以外で行われる上映活動 (主要な自主上映)

地域別映画地図

- (2) 上映に関わる用語集

2. 自主事業

[1] 「SAVE the CINEMA!」事業

(1) コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ（ミニシアター、シネマテーク、自主上映等）の活動に対する支援を実現するための、映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指して、文化庁や他団体と連携を図り、必要な活動を行う。

- ・ 隔月で、映画振興策に関するオンラインミーティングを実施する。
- ・ Action4cinemaや全興連等との連携をはかる。

(2) コミュニティシネマの活動情報ポータルサイト「アートハウス・プレス」の運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press（アートハウス・プレス）芸術電影館通信」を運営する。特に「Articles & Reports」の充実を図り、アクセス件数を増加させることにつとめる。

(3) コミュニティシネマセンター会員制度の充実、見直しなど

会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度（賛助会員の拡大、ライト会員等々）を検討する。

- ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。

今年度はウェブサイトの改訂に向けて検証作業を行う予定。

- ミニシアター（コミュニティシネマ）・ネットワーク会員相互割引サービスの再検討

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引制度

⇒各館の料金改定を反映、より使いやすいサービスに改編することを検討する。

※ユース割の導入検討…など

- デジタルシネマの更新に関する情報提供・情報共有

[2] こどもと映画 プログラム

(1) 「こども映画館～スクリーンでみる日本アニメーション!」 国立映画アーカイブ共催事業

巡回予定…前橋シネマハウス、鎌倉市川喜多映画記念館、ido（松山）、シネマ四国ほか

- 新しいプログラムの策定…「スクリーンでみる日本アニメーション!」に続くプログラムを検討する。
- ウェブサイト「こども映画館」の更新～夏休みの映画館ウェブサイトとの連動

(2) 映画教育プログラム（こどもと映画プログラム）学校（クラス単位）向け上映プログラムの策定

➔ 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 文化施設等活用事業」の実践に向けた準備

川崎市アートセンターで試作プログラム実践予定（秋から冬）

[3] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》

アンスティチュフランセ（日仏学院）がフランスの最新作や隠れた名作を紹介する特集「映画/批評月間～フランス映画の現在」は2023年にvol.5が開催され、コミュニティシネマセンターでは全国巡回を行ってきた。これまでのプログラムで上映された作品を見直し、新しい作品と併せた特集プログラムを組み、横浜、名古屋、広島等で上映する。

別添資料参照。

(2) ジョージア映画祭2024 自由、夢、人間——映画の王国ジョージアから

ソヴェト時代（1921—1991）に製作されたジョージア映画の全貌に迫る。2024年は、名匠エルダル・シェングラヤ監督、ラナ・ゴゴベリゼ監督の作品を中心に、ジョージア映画史上に輝く名作を一挙上映。

コミュニティシネマセンターで全国に巡回する。
東京（ユーロスペース）では8月末に開催。その後、各地に巡回予定。
別添資料参照。

主催：ジョージア映画祭実行委員会 企画：はらだたけひで
共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

(3) フレデリック・ワイズマン レトロスペクティブ2024 の開催

2024年8月に新作「メニュー・プレジール〜レ・トロワグロ Menu-Plaisirs – Les Troisgros」が公開されるフレデリック・ワイズマン監督作品の特集上映を開催する。

共催：アテネ・フランセ文化センター

また、全国への貸出しを積極的に展開する。

(4) 新しい巡回プログラムの創設

日本未公開のすぐれた作品の小規模な特集プログラムをコミュニティシネマセンターの会員館を中心に巡回（配給）する新しい企画を創設する予定。

(5) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

現在、コミュニティシネマセンターが上映素材を保有する作品（ポルトガル映画（オリヴェイラ、モンテイロ監督作品）、ロシア・ソビエト映画祭参加作品等）を活用した上映会を企画・提案する。

また、パブリックドメインとなっている英国ドキュメンタリー傑作選等保有する作品の貸出を行う。